

このページでは、避難生活での疑問や、除染・補償・賠償に対する質問にお答えします

ご協力ありがとうございました
10月20日 村役場飯野出張所前の
期日前投票所出口でお聞きしました



川村 稔さん(草野)

(質問) 避難後家内が亡くなり、自分で食事を作るのはなかなか大変。家族も協力してくれますが、週に1度、包括支援センターからヘルパーを派遣してもらっています。

(回答) 避難先の慣れない環境の中で、一人住まいをされることは大変なことと思います。川村さんは、介護保険のサービスを利用されており、ヘルパーさんが週1回支援に入り、一緒に食事を作ったり、家事の援助を行ったりしています。

包括支援センターでは、避難先でも快適に過ごすことができるよう、下記の内容で高齢者の皆さんの生活のサポートを行っております。問い合わせをいただければ、自宅に訪問させていただくなどして相談し、「どうすればよいか」を皆さんと共に考えてまいります。

介護予防ケアマネジメント事業	①自分でできる方への支援 低栄養予防教室・お口の健康教室・脳若トレーニングなど、自立した生活が送れるよう支援します。 ②ちょっと手助けが必要な方への支援 ヘルパーの訪問・看護師の訪問・デイサービス・ショートステイ・入浴などに役立つ福祉用具の案内等を行います。
権利擁護事業	悪徳商法の被害防止や金銭管理等、毎日安心して生活できるよう相談をお受けします。
総合相談窓口	介護・福祉・保健・医療に関する窓口です。
包括的・継続的ケアマネジメント事業	適切なサービスの提供と住みやすい地域づくりを行います。介護・福祉・保健・医療等、関係機関と連携し、地域の中でよりよい暮らし方ができるよう、皆で考えます。

なお、村の包括支援センターは飯野出張所内にあります。相談・お問い合わせのお電話は、☎024-562-4214までお願いします。



石井美智子さん(白石)

(質問) 皆それぞれに事情があり、どの道を選ぶか考えていると思います。いつ頃帰還できるのか先の見通しがほしい。帰還した後のことでは、経済面の生活再建が心配です。

(回答) 村は現在、「いいたてまでいな復興計画第5版」の策定に向けた、村民部会の話し合い、推進委員会の会議などを進めており、村内拠点づくりや地域計画、今後の生活支援のあり方などについて、計画の具体化を図っています。

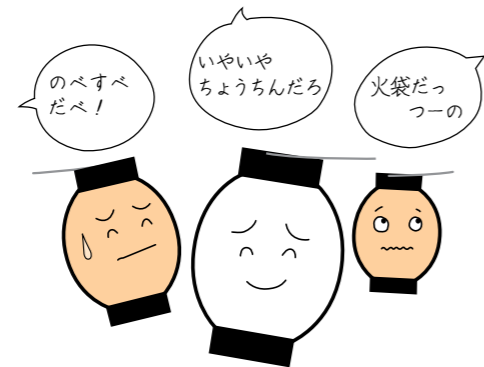
避難解除の時期については、除染やインフラ整備などの進捗状況をみながら、議会や村民の皆さん、国と相談し決めていきたいと考えておりますが、これまで除染完了見込み時期の見直しに伴い、何度も目標が先送りされてきています。現状では、昨年度の除染工程の見直しにより、少なくとも平成28年の3月までは全村避難を延長せざるを得ないと考えておりますが、帰還の時期をできるだけ早く示せるよう、引き続き除染の早期実施を求め、村内生活環境の整備を進めてまいります。

なお、経済活動の変化を余儀なくされている村民の皆さんの生活再建についても、相応の対策の制度化などを政府に求めています。また復興計画にかかる話し合いにおいても、村内復興拠点における雇用の創出等、働く場の確保に向け検討を続けてまいります。



三貫ただ取り

ある時、提灯持ちてきて見せだんだ。一人は、「火袋だべ」
「のべすべだ」
「提灯だ」
って言って、ほんじえ、



「坊様さ聞くべ」
「火袋って言うてくれろ」
「のべすべって言うてくれろ」
「提灯って言うてくれろ」
「これ何だ」
「火袋って言うてくれろ」
「のべすべでもねえ、提灯でもねえ。三貫ただどり」
「話者／高橋スギノ(関根・松塚) 飯館むかしばなし」から転載



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
佐藤 蘭ちゃん	一浩・なつみ	前田
遠藤 実結ちゃん	翼・志織	前田・八和木
花井 綺音ちゃん	晃・正美	伊丹沢
木幡 秋花ちゃん	昌博・百香里	伊丹沢
松下 絢音ちゃん	義光・景子	草野

すくすくと元気に育ってね

ひとのうごき

9月1日～30日までの人口動態		
人口	今月(前月比)	昨年同期
男	2912 (+3)	2921
女	2994 (+4)	3006
計	5906 (+7)	5927
世帯数	1626 (-1)	1656



結婚おめでとう

氏名	出身地
細杉 勝政	前田
金田 早希	会津美里町

いつまでもお幸せに



おくやみ

氏名	年齢	行政区
浅間 初郎	84	白石
菅野 マキ子	92	比叡
熊久保 紀美男	61	草野
佐藤 ミツエ	91	前田
佐藤 利美	88	小宮
佐藤 幸子	98	伊丹沢

ご冥福をお祈り申し上げます

(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届出のときに住民係へ申し出て下さい。

編集後記

9、10月と秋の行事が村学校等で多くあり取材に足を運ばせてもらいました。▼どの学校でもステージ上で発表をしている時の緊張している顔、友達と協力して成し遂げた達成感あふれる顔、終わった後のホッとした顔、子どもを見守る家族の顔などたくさん「顔」を見ることができ、広報担当としてまさに「実りの秋」となりました。▼一方では、御嶽山噴火に2週連続の大型台風上陸と、自然災害の脅威を改めて感じた秋でした。▼災害はいつ起きるか分かりません。村では11月1日より、メール機能を使った新しい防災情報の配信が始まりました。「万が一」が起きてからでは遅いです。ぜひ登録し、日頃から災害に備えましょう。(木幡)